平成 24 年 5 月 1 日
第 60 号

# やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

## 活動事例集に掲載

山口県農地・水・環境保全向上対策協議会では、活動団体の事例集を編纂発行しました。「八方原の環境を守る会」も掲載されました。




A 4 版 292 ページ、写真は全てカラーで掲載

平成19年からスタートした農地・水保全管理支払交付金制度についての5年間のまとめ的な事例集ができ上がりました。広大な農地に展開する団体や、山間部で棚田の保全を中心に行う団体など様々な取り組みが紹介されています。

どの団体も次世代に優れた農地を受け継がせたいと努力を続けておられる様子がよく分かります。共同作業も相当な重労働になるものや、機械力を駆使した作業などもあり、私達の地域とは事情が異なるところもありますが、そこならではの取り組みに感心させられます。

当地区の活動を「農業維新の風」と表題をつけて活動を紹介していますが、常に新たな取り組みに向かって努力を惜しまない姿勢が伝わればと考えて作成したものです。活動の様子を撮影した写真が事例集の表紙にも使われています。上郷小学校の2年生が体験学習に田植え見学に来た時の一枚でした。

閲覧ご希望の方は書記までお申し出ください。

## 近づく麦の収穫

麦が順調に育っています。春の日差しは麦の背丈を一気に伸ばしました。この時期は麦にとって大事な時らしく、管理機を使った消毒作業などが繰り返し行われていました。

もう暫くすると麦の収穫となります。初夏を表す季語として「麦秋」がありますが、農家にとっては慌ただしいひと時となります。



雨上がりの麦畑、緑色の麦穂が出揃った

## 水路清掃作業にご協力を

水路一斉清掃作業が5月27日に行われます。従来農家の共同作業として行ってきましたが、本年より地域全体の取り組みとして行うことになりました。地域全体の排水機能を受け持つ部分の清掃作業ですので、どなたでもご参加下さい。また、僅かですが日当をお支払いいたします。

**【日時】** 5月27日（日）午前8時より
**【集合場所】** 八方原ふれあい朝市広場
**【持参品】** 長靴・スコップなど


この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

## みんな元気でやろうで いっしょにいつまでも

### 食べて、飲んで、歌って「敬老会」



この日ばかりはゆっくりと過ごして

八方原区の敬老会が4月22日に地区公民館で行われました。今年70歳になられる（数え年）方を新たに3人お招きして対象者の合計は64名となりました。当日の会場には40名が出席されました。開会の乾杯では重富享祐さんが「死ぬまで元気で行くぞ」と宣言、会場は笑いの渦に包まれました。

会場は終始和やかな雰囲気で、余興の部ではたくさんの名人が日頃の練習の成果を披露して下さいました。あまりのお元気さに呆然とすることもありました。いつまでもお元気でお過ごし下さい。

本年4月1日現在、山口市の65歳以上の高齢者の割合は24・5％ですが、小郡地域は20％です。また市全体の100歳以上の超高齢者は125名いらっしゃいますが小郡地域では5名です。100歳以上は当地区でもなかなか達成できません。

全国的に見ると100歳以上の割合で島根県が75・7人（人口10万人あたり）と2年連続のトップとなり高知県、沖縄県と続いています。小郡地域の割合を換算すると約20人です。



原田さんのタオルを使ったダンス

## 公共下水の工事進む

公共下水道公共下水道の工事が着々と進んでいます。当初の予定では3月末日までの予定でしたが、5月25日まで工事期間がずれました。

既にところどころのマンホールの設置は終わっていますから、それらを配管で接続して行きますが、正確な勾配で設置する必要がありますので、慎重に進められています。24年度も次の区間の工事が始まります。



パワーショベルが活躍する下水管埋設工事

## 待たれる新町交差点改良

国道9号新町交差点は当地区の入り口として利用することの多い交差点です。しかし非常に変則的で事故も多く、改良が必要とされながら、工事計画全体は進んでいません。

数年前から着工できるところから工事が再開してきています。平成23年度の工事が終わった状態では、八方原橋から南側（四十八瀬川の堤防の方向）に向かっての道路の概要が現れてきました。

下の地図の黒い太線部分が現在路盤ができ上がった部分です。既に歩道と車道とを分けるコンクリートブロックも配置されています。この道路がりんこう土手を北に進んで、四十八瀬川を横断した県道に接続し、その県道がJR山口線の下を通って新町交差点に接続するようです。当地区としてはかなり遠回りになるようですが安全のためにはやむを得ません。




上の地図の星印から撮影したのが下の写真

